

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

1. 体育学部・体育学研究科

研究 1-1

体育学部・体育学研究科

I	研究水準	研究 1-2
II	質の向上度	研究 1-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、論文掲載数は 77 件、教員一名当たりの論文数は 1.3 件であり、国際学会には招待講演、パネリストとして参加している。学内において、競技スポーツを支援する TASS（Top Athlete Support System）プロジェクト研究、運動による健康作りを支援する PALS（Promotion of Active Life Style）プロジェクト研究を実施しているが、前者のプロジェクト研究は世界選手権大会等における優勝、入賞に多大な貢献をしている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の申請数は 54 件、採択数は 21 件、採択率は 38.9%、配分額は 4,035 万円であり、いずれも平成 16 年度以降徐々に増加している。共同研究・受託研究は合わせて 10 件、1,000 万円であり、このうち共同研究の件数は平成 16 年度以降やや増加していることなどは、相応な成果である。

以上の点について、体育学部・体育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、体育学部・体育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 研究成果の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、卓越した研究業績はみられなかったものの、体育大学の特徴として、競技力の向上のための指導理論、トレーニング理論が挙げられる。

特に骨格筋に関する基礎研究において国際的に評価の高い優れた成果を上げている。社会、経済、文化面では、卓越した研究業績はみられなかったものの、学内研究の一つである PALS プロジェクト研究において、地域と連携を図りながら中高齢者の運動による生活習慣病の予防システムを構築するなどの優れた成果を上げている。また、TASS プロジェクト研究において、競技スポーツにおけるトレーニング法の在り方に影響を与えるとともに、国民のスポーツ振興にも影響を与える優れた成果を上げている。これらの状況などは、相応な成果である。

以上の点について、体育学部・体育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、体育学部・体育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「高い質（水準）を維持している」と判断された事例が 1 件、「相応に改善、向上している」と判断された事例が 1 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。なお、判断理由については、以下のとおり変更する。

[判断理由]

「高い質（水準）を維持している」と判断された事例が 1 件、「大きく改善、向上している」と判断された事例が 3 件、「相応に改善、向上している」と判断された事例が 2 件であ

った。